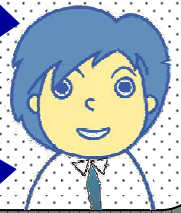




ねっどわーく



H24. 04. 21

No.8

■あこがれの原則（あの先生と、同じ景色を見てみたい）

今回のたよりは、学級経営というより学校経営というか、研究全般（子どもの見取り）にかかわること、教師の出に関することです。私個人のことになりますが、ここ数年のテーマは「可視化（見えないものを見える化）」です。で、昨日の児童会発表をケースに、思いを述べたいと思います。

【この場面】

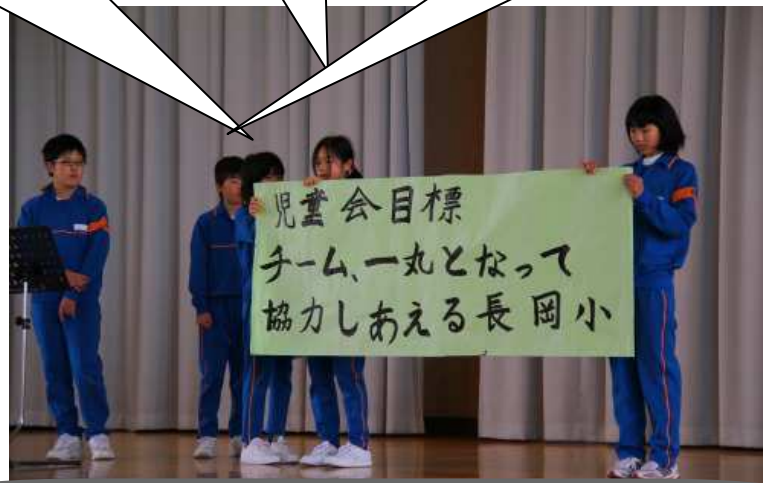
緊張のため

言葉がつまってしまった。

は、何かをしたわけでは
ないが、駆け寄る。

それを、
さんが、見事
にカバー！

よく全体の前で
話せるようにな
ったね。成長し
たね。



この局面を、自分たちの力で、打破！＝子どもたちの学び合い

よくカバーしたね！す
ごいね！助け合いの姿が出てたね。

に、
どうフォローしてい
くといい？

そば
にいてくれるだけでも心強
いよね。

事後のわたしたちの見取り＝教師集団の学び合い

この場面、わたしたちがとった指導（支援）は何だったのでしょうか？答えは「待つ」。つまり何もしなかったわけです。しかしながら、子どもたちは局面を乗り切りました。ここがポイントだった。結果、良い指導をしたことになります。

でも、このまま、この現象を流してしまっても、学習になりません。事後に「あの場面で…」と子どもたちにふりかえらせることこそ、教師の出の場面。子どもたちは、このよさに気づいていません。こういう場面はよく教室でもあります。

今日の格言「待つことは、結果、良いことをもたらすことが多い」